

プロジェクト課題No. 1

担い手を核とした地域農業の継続・発展

◆ 対象名及び対象者数

表山田・三段田地区

中心経営体2経営体及び主要農家8人

◆ 計画期間：令和5年度～令和6年度

◆ チーム員： ◎清水、早坂、高橋、平、門脇

1 課題の背景

- 高齢化の進行や後継者不足により、地域農業の維持が難しくなっている。
- 農地は不整形で小区画、土水路が多く、大雨時には浸水や土砂流入。



- 担い手への農地集積を図るため、農地整備事業を活用し効率的な営農を推進
- 園芸作物導入による収益性の確保
- 水稻の省力化を図り規模拡大を可能にする



地域農業の継続・発展を目指す

2 今年度の目標

- (1) 地域農業の将来の在り方について合意形成に向けた検討が行われ、課題が整理・共有される
- (2) 地域農業の収益性を高めるための高収益作物候補品目について試験栽培を含む検討が行われる
- (3) 乾田直はの試験栽培をとおし、改善点が整理される

【数値目標】

担い手への農地集積について合意形成に達した面積

R4 : 2.9ha → R5 : 2.9ha → R6 : 13.9ha

3 今年度後半の活動内容

(1) 地域農業の将来の在り方の合意形成

- ①優良事例等の紹介
- ②かわら版の継続発行
- ③課題の洗い出し、整理・共有

(2) 高収益作物の検討支援

- ①枝豆・サツマイモに係る試験栽培の振り返り
- ②次年度に向けた作付計画の作成

(3) 水稲省力化技術向上支援

- ①今作の実績のまとめ

(1) 地域農業の将来の在り方の合意形成

①優良事例の紹介

- ・当該地区と同程度の規模である中山間地域の優良事例 2 地区（岩手県）
- ・県内中山間地での集落ぐるみの法人化事例 2 地区
- ・枝豆やさつまいも栽培などの先進事例 2 か所

②かわら版の継続発行（9・11・1月発行）

かわら版 第2号
令和5年9月15日 表山田・三段田地区ほ場整備事業推進委員会


👉 さつまいもの収穫作業にご協力をお願いします！
表山田・三段田地区の農業収益力の向上に向け、さつまいも（べにあずま、6.8a）の試験栽培に取り組み、5月28日、皆さんの協力のもと定植作業を実施しました。
8月28日に試し収穫をしたところ、十分な大きさに生長していました。また、ふかし芋にして食味を確認したところ、ホクホクしく甘さもあり、十分な品質に達していると考えられました。
このため、9月4日に収穫作業の打ち合わせを行い、下記のとおり収穫作業を実施することになりました。
皆さんのご協力をお願いします。



📅 日時 令和5年10月1日(日)午前8時30分～正午頃
※当日・前日が雨天の場合は、10月9日(祝・月)に繰上

かわら版 第3号
令和5年11月15日 表山田・三段田地区ほ場整備事業推進委員会

👉 さつまいもを収穫しました！
ほ場整備後の農業収益力の向上を目指し、今年度、さつまいも（品種：紅あずま、面積6.8a）の試験栽培に取り組みました。天候に恵まれて順調に収穫期を迎え、収穫作業当日の10月1日は15人の参加がありました。
当日は、畝を切る、マルチをはがす、掘り上げるといった一連の作業を手分けして行いました。掘り上げる作業では、「人さし」と感受の声、「(芋を)切っちゃった」と残念がる声があふいた。終始、賑やかに作業が行われました。
現在、倉元所を中心に販売しており、販売終了後は、試験栽培の振り返りを行い、結果報告を行います。
収穫作業に汗を流していかれた皆様、ご協力ありがとうございました。



さつまいもの掘り声があふく
人さし〜ん〜ん！

(1) 地域農業の将来の在り方の合意形成

③課題の洗い出し、整理・共有

合意形成に向けた課題として、

- ・担い手の明確化
- ・将来に向けた営農計画

以上について、役員会で提案し、令和6年度も検討していくこととした。

⇒地域の合意形成の結果を、将来の農地利用の姿をより明確化した「地域計画」に反映

(2) 高収益作物の検討支援（えだまめ）

①試験栽培の振り返り

収量	479kg/10a（白老早生）
収益	134,000円/10a ※播種・収穫の人件費除く



- ・試験栽培から明らかになった課題と対応策を提示

課題	R6対応
収穫調製の労働力確保	段播き、早・中・晩生品種の導入
連作障害対策	輪作、他品目野菜の選定
担い手の確保	方向性を検討
販売先の確保	方向性を検討



⇒高収益作物の候補品目として、次年度も試験栽培を実施。
現在、課題を踏まえて次年度作付計画を検討中。

(2) 高収益作物の検討支援（さつまいも）

①試験栽培の振り返り

収 量	1,029kg/10a（紅あずま） ※苗不足により株間は標準の倍の60cm
収 益	41,000円/10a ※定植・収穫の労務費除く



- ・試験栽培から明らかになった課題と対応策を提示

課題	R6対応
苗の確保	全国的に苗が不足 早めに手配または採苗
水稻収穫作業との競合	回避策検討
収穫調製作業の労力確保	機械導入
品種選定	実需者ニーズに合った品 種選定（紅はるか等）



⇒キュアリング等収穫後の労力負担から、高収益作物候補から除外

(3) 水稲省力化技術向上支援

①実績・成果



- ・栽培方法：乾田直は栽培（グレンドリル方式）
- ・品種 ササニシキ（50a※隣接ほ場を合筆）
- ・収量 420kg/10a
- ・等級 全量1等

・乾田直はに関するは種等実演会、ドローンによる防除・追肥実演会、生育中間検討会を開催した。

・ドローンについては操作資格、県RTK基地局利用、機体導入、アグリテックアドバイザー派遣等を生産者と検討し、それぞれ申請に関する相談・支援を実施した。

(3) 水稲省力化技術向上支援

①実績



ドローンによる作業時間
約1分/50a

- ・ほ場を合筆したことで、漏水が発生
除草剤の効果が得られず、肥料の溶脱、かけ流しになったことによる生育遅延が発生

出穂期：8/12 2週間程度遅かった

※なお、乾田直は移植と出穂期は変わらない：3月播種→4月出芽→5月中旬に幼苗程度 → 出穂期等生育進展は移植同等。

- ・乾田直はにより、は種時期の分散、代掻き、育苗の省力化、ドローンでの作業により時間短縮。→ **経営面積拡大について検討することが可能**

令和5年作は50a → 来年度は3haに拡大

4 今年度の目標の成果・達成状況

- (1) 地域農業の将来の在り方について合意形成に向けた検討が行われ、課題が整理・共有される
⇒合意に向けた課題が理解・共有され、高収益作物の受け手等継続検討することとなった。
- (2) 地域農業の収益性を高めるための高収益作物候補品目について試験栽培を含む検討が行われる
⇒えだまめの導入を目指して、次年度も試験栽培を実施。
- (3) 乾田直はの試験栽培をとおし、改善点が整理される
⇒播種作業やドローン活用の研修会の実施等を通じ、直は栽培の安定化や作業時間の短縮が図られ、次年度の面積拡大に繋がった。

【数値目標】 担い手への農地集積について合意に達した面積

R4 2.9ha → R5 2.9ha (→ R6 13.9ha)

5 対象者からのご意見

地域の将来について、構成員がある程度同じ認識を持っていることが分かった。将来ビジョンについて構成員の合意まで図られたが、これからがスタート！役員が中心となってビジョン達成に向けて一致団結していくが、これから具体的な詰めの話し合いがなされるので、関係機関ともども今後の指導をお願いしたい。

表山田・三段田地区ほ場整備推進委員会 三浦敏治郎委員長



6 来年度の活動内容

- (1) 担い手の明確化等の検討や「かわら版」の継続発行を支援し、地域の合意形成を図る。
- (2) えだまめの課題解決を進めるとともに輪作体系に導入する高収益作物を選定する。
- (3) 規模拡大に向け、機械利用や作期分散の可能性を検討する。